

SUSTAINABILITY REPORT 2022



株式会社 **エフコム**

F-COM Co.Ltd.

株式会社エフコムは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

ICTソリューションの提供を通じ、お客様のより良いビジネスパートナーとして、経済・環境・社会に積極的に貢献して参ります。



INDEX 【目次】

| | |
|---|----|
| ■ トップメッセージ | 3 |
| ■ 特集1 【ドリーム・ラボ上伊豆島について】 | 4 |
| ■ 特集2 【デジタル田園都市国家構想について】 | 6 |
| ■ 特集3 【健康ウォーク2022を開催しました！】 | 8 |
| ■ 特集4 【『一本の水路』ハッカソンで安積疎水土地改良区賞受賞！】 | 9 |
| ■ 地域への貢献（地域社会とともに） | |
| (1)エフコムベースボールクラブ | 11 |
| (2)インターンシップ | 13 |
| (3)ごみ拾い活動について | 13 |
| ■ 森を育む【エフコムの森】 | 14 |
| ■ 人を育む【エフコムの塾】 | 16 |
| ■ 共に育む【エフコムの輪】 | |
| (1)「一般社団法人ふくしま地域振興研究所」の活動 | 18 |
| (2)「ふくしま創生 創・蓄・省エネルギービジネス創出研究会」の活動 | 19 |
| (3)「情報セキュリティ研修」の紹介 | 19 |
| (4)「獣(じゅう)マップ」の紹介 | 20 |
| ■ データセンターが貢献するサステナブル社会 | |
| (1)データセンターの紹介と環境負荷低減 | 21 |
| (2)データセンターが高度に共助し貢献する「FCAセンター相互応援コンソーシアム」について | 22 |
| (3)ロール紙プリンタ導入(新BP0)について | 23 |
| ■ 信頼への取り組み | |
| (1)品質向上 (ISO9001) への取り組み | 24 |
| (2)情報セキュリティマネジメント (ISO27001) への取り組み | 24 |
| (3)ITサービスマネジメント (ISO20000) への取り組み | 25 |
| (4)クラウドサービスセキュリティ(ISO27017)への取り組み | 25 |
| (5)個人情報保護 (Pマーク) への取り組み | 25 |
| ■ ビジネスインフォメーション | 26 |

トップメッセージ

Reborn! f-com (リボーン! エフコム)

～創立100年時も持続可能な企業であるために～

エフコムは、国連が2030年までに達成をめざす「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、企業価値を高める活動を積極的に行ってまいります。社員の皆さんとともにSDGsについて様々な角度から考え「誰も置き去りにしない」世界の実現をめざします。



私たちは「チームエフコム」の精神により「Smart thinking for you」の文化を醸成し、「お客様と共に感動を創造する企業」を目指し活動しております。

また、DX(Digital Transformation)の進展により、近未来のサステナブル社会(Society5.0)への変革が進む中、当社の果たすべき役割は多岐にわたり可能性を秘めていると考えます。

多様化するニーズや社会環境の変化をとらえ「デジタル革新」へ積極的に取り組み、お客様や社会が求める持続可能な新たな価値を実現する変革を起こし、共創によりイノベーションを加速させます。

そのような状況下において、持続可能な開発目標SDGs(Sustainable Development Goals)の取り組みの意味および重要性を理解し取り組みを加速させることが必要だと考えております。

当社も、SDGsを事業並びに経営へ展開すべく未来志向で何をすべきなのかを考え積極的に取り組んでおります。

毎年発行の当サステナビリティ報告書は、社会における企業価値を考え、社会活動を行っている取り組みを広報してまいりました。

今後も更にSDGs経営やESG(Environment/環境、Social/社会、Governance/企業統治)投資を、本質的かつ普遍的な企業価値と捉え、その実績が広報できるよう取り組みます。

また、2020年からの新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでの生活様式や働き方に対する変化への対応が求められ、新たな社会の在り方が構築されるなか、エフコムは、今後もいかなる変化にも対応し、「サステナビリティ」を経営の優先課題と捉え、事業を通じた社会課題の解決に全力で取り組んでまいります。



代表取締役社長

齋藤正弘

特集 1

【ドリーム・ラボ上伊豆島について】



人が学び・働き・遊び・夢を形にする場

エフコム ドリーム・ラボ 上伊豆島

私どもエフコムは、1980年の設立以降、福島県内を中心としたお客様の抱えるさまざまな課題、社会インフラの整備等をIT（ICT）を用いて解決すべく取り組みを進めてまいりました。方策や措置の提言に際しては、お客様のご期待を超える提案を志向することはもちろん、高品質かつ信頼性の高いサービス・製品を継続してご提供できるよう鋭意研鑽を重ねています。

また、この度学び舎としての役割を満了した「旧郡山市立上伊豆島小学校」に代表されるような、少子高齢化に伴う廃校施設の利活用は、私ども地域の一員があらためての活性化に向け尽力すべき命題の一つと考えております。

そこで、地場企業として 40 年余にわたりお世話になっていることへの感謝と蓄積した経験や実績を活かし、「旧郡山市立上伊豆島小学校」を『エフコム ドリーム・ラボ 上伊豆島』へと整備、転換し、新しい生活様式に対応した、人が学び・働き・遊び・夢を形にする場づくりに取り組むことといたしました。

新たなコンセプトを实践する本拠点を通して、持続可能な地域社会の実現と共に地元根差したIT企業を目指してまいります。

2022年2月28日 業務開始

サービスビジネス本部とシステム本部の約60名がオフィススペースに勤務しています。

2022年4月12日 オープニングセレモニー

品川市長、上伊豆島地域の方々約90名にご出席いただきました。



オープニングセレモニーの様子

施設案内

インキュベートルーム1&2



創業希望者や社会に役立つアイデアをお持ちの方、新たな事業分野に挑戦しようとする皆様を対象に、エフコム ドリーム・ラボ上伊豆島「インキュベートルーム」を一定期間廉価な費用でご提供します。

また、当社内蓄積の知見を活かし事業化も応援します。

コワーキングスペース

個人事業主、在宅勤務者の皆様を対象にコワーキングスペースを廉価な費用でご提供しています。

多目的スペース



未来の教室



上伊豆島小学校 歴史資料館



実際の教室で、最新の教育ICT設備を展示しています。常に新しいモノ（ハード・ソフト）に更新し、教室の「未来」をご体感頂けます。

未来の上伊豆島小学校がココに開校し続けます。

特集 2

【デジタル田園都市国家構想について】



デジタル田園都市国家構想とは

地方を中心に、人口減少・少子高齢化、過疎化・東京圏への一極集中、地域産業の空洞化といった課題に直面しています。こうした課題を解決するには、これまでの地方創生の成果を最大限に活用しつつ、地方活性化を図っていくことが求められています。

デジタル技術が急速に発展する中、デジタルは地方の社会課題を解決する鍵であり、新たな価値を生み出す源泉となっています。

今こそ、デジタルの実装を通じ、地域の社会課題の解決と魅力の向上を図っていくことが重要です。

「デジタル田園都市国家構想」は、「新しい資本主義」の重要な柱の一つです。デジタル技術の活用により、地域の個性を活かしながら、地方の社会課題の解決、魅力向上のブレイクスルーを実現し、地方活性化を加速する。

国は、基本方針を通じて、構想が目指すべき中長期的な方向性を提示し、地方の取り組みを支援する。地方は、自らが目指す社会の姿を描き、自主的・主体的に構想の実現に向けた取り組みを推進し、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す。

デジタルの力で地方が日本の主役になる、そんな未来が始まっています。

出典：内閣官房ホームページ

スマートシティAiCT

当社では、2019年4月より、会津若松市にあります「スマートシティAiCT」に入居し活動を進めています。スマートシティAiCTは、「スマートシティ会津若松」の取り組みの一環として、会津若松市がICT関連企業の集積拠点として整備し、2019年4月から供用開始されたオフィス環境（及び、オフィス周辺エリアの総称）です。ICT関連企業のみならず様々な業種業態の企業が地域及び首都圏から機能移転し、地域の「困った」を最先端のJ-Techで、世界に先駆けて解決しようと、当社を含め入居企業によるコラボレーションからシナジーを生み出し、地域からイノベーションを生み出すべく日々活動しているところです。

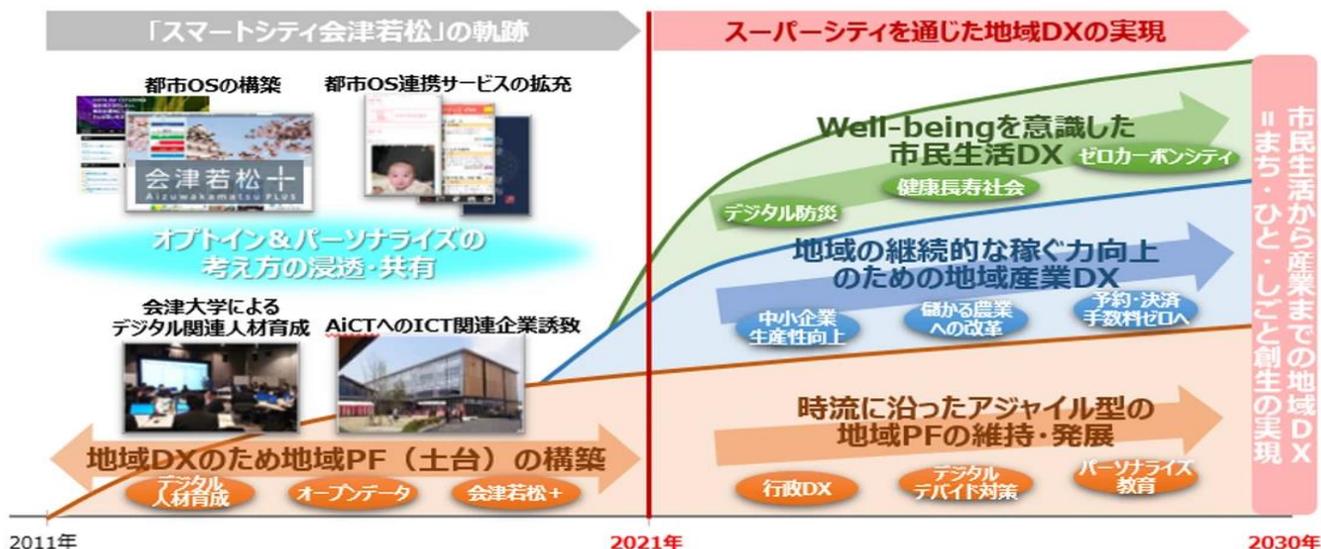


AiCTコンソーシアム

会津若松市が復興事業のシンボルとして2011年より始めたスマートシティプロジェクトも10年を迎えました。

現在は日本のトップランナーである会津モデルの展開と、今後の10年間を目標にスーパーシティへのステージアップの実現を目指し、推進していく運用法人としてAiCTコンソーシアムが設立されました。

当社もスマートシティAiCT入居企業の一員のとしてAiCTコンソーシアムに参加し、ICT等の活用により地方行政が抱える課題を解決する地方発のスマートシティモデルを一体となって構築していきます。



【複数分野のデータ連携による共助型スマートシティ推進事業】

2022年度、会津若松市では「スマートシティ会津若松」の発展・深化に向けたプロジェクトを計画し、デジタル田園都市国家構想推進交付金を申請したところ、データ連携基盤を活用して複数サービスを提供するモデル的な取り組み（タイプ3）として、採択を受けました。

会津若松市では、これを「複数分野データ連携の促進による共助型スマートシティ推進事業」として、データ連携基盤である都市OSを活用して、ヘルスケア、行政、観光、防災、決済、食・農の6分野でデータ連携と付加価値の創出につながる市民向けデジタルサービスを2022年度中に順次実装して行くものです。

この事業は、会津地域でスマートシティ事業を推し進めるAiCTコンソーシアムが実施主体に選定され、グローバル企業から地元企業・団体まで、会員企業・団体が組織の枠を超えたコラボレーションで事業を推進します。

当社では、行政分野で都市OSと連携可能なオープンデータプラットフォームサービスを提供します。



【出典】DATA for CITIZEN <https://portal.data4citizen.jp/>

三方良しの地域社会貢献を目指して

当社では、スマートシティの取り組みを通して、地域・市民・企業にメリット、納得感がある「三方良し」の考え方をベースとした地域社会の実現を目指し、更なる企業価値の向上へ、そして一層の包摂的な社会的責任を果たすべく取り組んで参ります。

特集3

【健康ウォーク2022を開催しました！】

社員の健康促進イベントとして、あづま総合運動公園でウォーキングイベントを開催しました。快晴の中、絶好のウォーキング日和となり、約100名もの参加者がウォーキングを楽しみました。

季節を感じる体感を

肌寒い秋風の中、ウォーキングで身体を温めながら、紅葉や秋の野山の風景を眺めて、清々しい秋の一日を過ごしました。

普段は別々の拠点や部署で仕事をしていますが、この日は様々な人と交流しながらウォーキングを行いました。

ウォーキングイベントが終わった後も各々公園内でおにぎりを食べながら秋を満喫しました。



コース途中に楽しいクイズ

ウォーキングするだけではなく脳も活性化！コース内の7カ所にクイズを設置し、クイズを解きながらウォーキングを楽しみました。

「なかなか難しいかったです。」との声が多く聞かれましたが、すべてのクイズを解き終え笑みを浮かべながら受付に戻ってくる光景が見受けられました。



豪華健康グッズ抽選会

クイズを解いたあとは、豪華健康グッズが当たる抽選会！

ウォーキングに参加した人全員に抽選会を実施。すべての人に健康グッズが配られました。

1等賞は、Apple Watch！その他にも様々な健康グッズがあり、盛り上がりました。

健康グッズで日頃から健康になっていただきます！



頑張った後は、おにぎりのご褒美

クイズを設置したことで、ほとんどの方が一番長い6km以上のコースを歩きました。

疲れた後は、昼食とご褒美のチョコレートが配布されました。



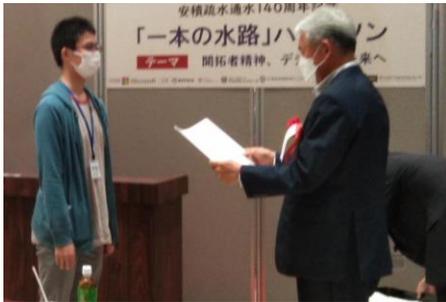
特集4

【『一本の水路』 ハッカソンで 安積疏水土地改良区賞受賞！】

【一本の水路ハッカソン】

安積疏水の通水140周年を記念して開催された『一本の水路』ハッカソンにて、エフコムチームが**安積疏水土地改良区賞**を受賞しました。

ハッカソンはアプリ開発で安積疏水の魅力を発信することを目的として9月3日(土)～9月4日(日)の2日間にわたり、郡山市にあるJA福島さくら農産物直売施設めぐりあにて開催されました。



▼福島民友ニュース
最高賞2団体決まる 「一本の水路」ハッカソン、アプリ開発挑戦

2022年09月05日 08時55分 いいね! 3 シェアする Tweet

安積疏水通水140周年を記念し、県内外のプログラマーらがアプリケーション開発に挑戦するイベント『一本の水路』ハッカソンの最終日は4日、郡山市の農産物直売施設めぐりあで開かれた。アプリの発表と審査会が行われ、最高賞の日本マイクロソフト賞には県立テクノアカデミー郡山（学生の部）と丑之日プロジェクト（一般の部）が選ばれた。

ITエンジニアグループ「エフスタ!!」と福島民友新聞社などで行く「ふくしまプログラミング推進協議会」の主催。
日本遺産「未来を拓（ひら）いた『一本の水路』」を題材に、2日間でソフトウェアを開発し、その内容を競った。学生と一般の2部門に県内外から各4チーム、約30人が参加した。

参加者らは、安積疏水をはじめとする郡山の魅力を紹介するためにアイデアと技術を駆使したアプリを発表した。表彰式では、日本マイクロソフトシニアクラウドソリューションアーキテクトの畠山大有さんが「質の高いアプリが多く開発され、とても有意義な時間だった」と総括し、参加者らをたたえた。

他の受賞チーム次の通り。

- ◇学生 ▽福島情報産業協会賞=Wiz Mark 3 ▽NTT東日本福島支店賞=めぐりあイチバ▽JA福島さくら賞=BNK
- ◇一般 ▽郡山商工会議所賞=チームJH ▽安積疏水土地改良区賞=エフコム ▽福島民友新聞社賞=ラビラビ

福島民友 2022年9月5日

【アプリの紹介】

『開拓者精神、デジタルの未来へ』というテーマから、県内・国内での認知率の向上を目的として、ゲームをきっかけに安積疏水のことを知ってもらえるアプリを作成しました。

アプリ名 水路開拓フロンティア



アプリイメージ図

試作版アプリ

期待される3つの効果

| 関心（当初の課題） | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">ゲームを通して自然と興味を持ち、自ら調べるようになる現地へ来てもらうきっかけになる | |
| 学習 | PR効果 |
| <ul style="list-style-type: none">一本の水路の知識を広く浅く学ぶことができる福島県の地理も学べる | <ul style="list-style-type: none">観光情報の紹介（観光スポット お土産など…） |



参加メンバー
Yさん：マネジメント、Iさん：企画、Sさん：PG
Wさん：テスター、Tさん：デザイン

【感想】

アイデア出しには苦労しましたが、最終的に同じ目的に向かって突き進むことができました。普段は部署、拠点の隔たりがありますが、一緒にハッカソンを乗り越え一体感のある仲間になったと思います。

地域への貢献（地域社会とともに）

（1）エフコムベースボールクラブ



ベースボールクラブ
HP

エフコムベースボールクラブは、2021年3月から新たにスタートしたチームです。エフコム社員を中心に各企業のメンバーが集い、福島県伊達市を本拠地としています。高校や大学を卒業後も志を持つ野球人が「野球でも仕事でも輝く」をスローガンに切磋琢磨し、常にチームや職務における頂点を目指して研鑽を積んでいます。

次世代の地域社会を担う社会人の育成



野球で福島を元気に！ 繋げよう絆・広げよう地域の輪

社会経験豊富な選手、野球を学問として勉強してきた野球人が地域に根付き、次の世代を育てていく環境への貢献。

また、「野球で福島を元気に！」をモットーとして、福島県の野球レベル向上、更には地域社会を担う人材の育成など、そんな循環型の仕組み作りも目標の1つとして取り組んでまいります。





2022年度シーズン 大会成績

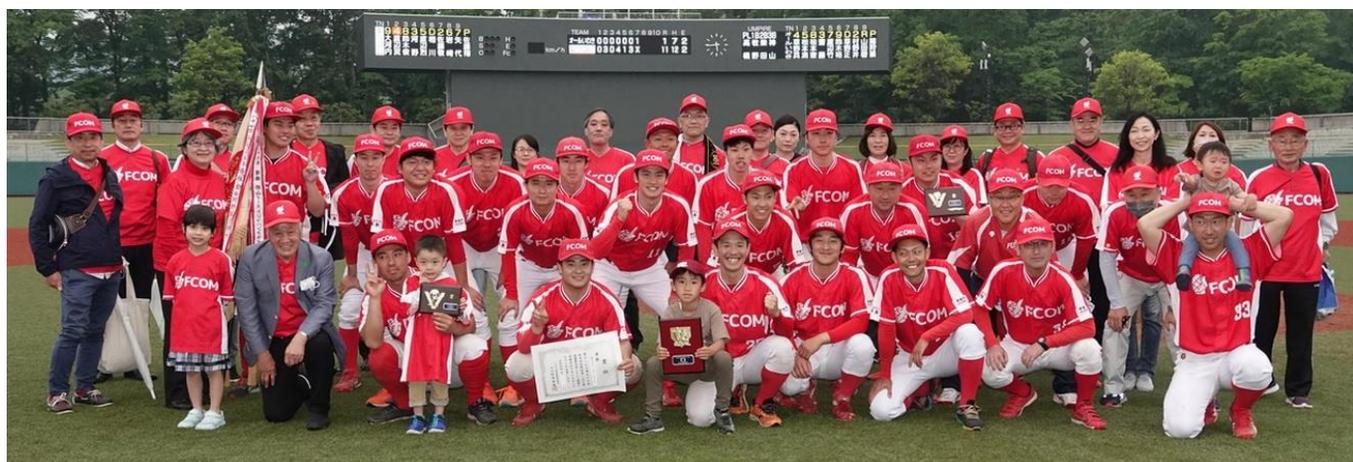
- 【5月】 JABA福島市長杯争奪野球大会 優勝
都市対抗野球福島県大会 優勝
- 【7月】 全日本クラブ選手権大会東北大会 第3代表
- 【8月】 全日本クラブ野球選手権大会 ベスト8
- 【9月】 JABAスポニチ福島支局杯社会人選抜野球大会 優勝
- 【10月】 JABA毎日新聞社杯社会人選抜野球大会 優勝



今シーズンは初戦となる福島市長杯を接戦で制し、続く都市対抗野球福島県大会も優勝を果たすことができました。6月に入り全日本クラブ選手権福島県大会では、チーム状態が低迷し苦戦を強いられます。

その後、一丸となって巻き返しを図り、何とか出場権を得た同東北大会においては、連日猛暑の中で熱戦を展開し第3代表ながら全国大会への切符を勝ち取りました。勢いを維持して臨んだ全日本クラブ選手権は1回戦を勝利。続く準々決勝は前年度優勝チーム相手に互角の戦いを繰り上げましたが、ベスト4の壁に阻まれました。

秋の2大会は全員野球で栄冠を手にしシーズンを締めくくりました。来季は気持ちを新たに、更なるステージを目指してチャレンジしてまいります。



(2) インターンシップ

当社では、夏季・冬季休暇を利用し、学生向けの「インターンシップ」をオンラインと来社型にて実施しており「自己分析」と「システムエンジニアを体験する」という内容で実施しております。

また、福島大学様の「プレ・インターンシップ」をドリームラボ・上伊豆島にて行いました。1～3年生を対象に仕事の現場を直接見て触れて肌で感じることを通じて、驚きや発見、進路・職業選択、キャリア形成について視野と関心の幅を広げることを目的として実施しました。福島大学出身の社員とグループワーク形式でシステム設計を体験し、ユーザビリティの大切さを体験していただきました。

福島大学様プレ・インターンシップ
グループワークの様子



(3) ごみ拾い活動について

社員間におけるコミュニケーションの促進と、日頃の運動不足解消も兼ねて、有志によるゴミ拾いウォーキングを実施しています。福島市・郡山市の各事務所にてそれぞれ定期的で開催し、2021年度には計32回、延べ406名が参加しました。

2022年2月からは、福島市が認定する「ふくしまきれいにし隊」という取り組みに参加し、参加者が安心して長く活動に取り組めるよう、活動を行っています。

【ふくしまきれいにし隊とは？】

「ふくしまきれいにし隊」とは、市民の皆さんと市が協働で進める「アダプトプログラム」で、市民の皆さんがボランティアとして「もっと、まちをきれいにしたい」という気持ちで道路や公園などの清掃をおこない、市がそれを支援していくものです。

アダプト (ADOPT) とは、「養子縁組」という意味です。

「アダプト・プログラム」は、市民のみなさんが「里親」で、道路・公園・河川などの一定区画を「養子」にみたと、愛情と責任をもって美化（清掃）活動をおこない、市がこれを支援することです。

【出典】福島市HP

<https://www.city.fukushima.fukushima.jp/kankyo-eisei/machizukuri/shizenkankyo/kankyoese/poisute/1136.html>



森を育む【エフコムの森】



ロケーションの紹介



- 所在地：会津若松市河東町
- 広さ：44.5ha(東京ドームの9.5倍)
- 樹種：針葉樹と広葉樹の混合林

磐梯山の南西山麓のとても静かな場所にあるのが、エフコムの森です。この森の意味は、環境共生というやや難しいテーマではなく、単に社員やその家族の憩いの場として親んでもらう事にあります。森は針葉樹、広葉樹からなり、小川や沼もあるまさに憩いの場としては最高のロケーションです。



水が豊富

エフコムの森には綺麗な小川が流れており、いずれは水芭蕉とホタルが飛び交う環境へ再生したいと思います。ホタルが住む環境を維持する事もかなり大変な努力が必要ですが、皆で頑張ります。



木の実が豊富

木の実が豊富なのは森が豊かな証拠です。また、動物達を呼ぶ事になるので自然の回生が働き、更に森が豊かになります。



柏(かしわ)の木は百年続く企業の守り木

エフコムの森の広葉樹はコナラが多勢を占めます。その中で柏の木も比較的多く、翌年に新芽が出るまで古い葉が落ちない特性から「代が途切れない」縁起物として柏餅に用いられています。端午の節句に柏餅を食べるのもその由縁です。

百年続く企業を目指すエフコムにとっては正に縁起ものであり、大切にしていきたいと思えます。



憩いの場としての活用

社員の憩いの場として活用することを目的として、エフコムの森では、定期的にイベントを開催しています。

2021年9月には山小屋(トイレ完備)も新設された為、社員だけでなく、家族を対象にしたイベント等も積極的に開催し、より一層の活用に向け取り組んでいきたいと思えます。



桐の植樹祭の様子

■豊かな森を作るための活動の一環として、2019年から新入社員による桐の植樹祭を毎年開催しています。厳しい寒さと豪雪が特徴的な気候である会津で生み出される「会津桐」は、緻密で美しい年輪を備えた光沢が特徴であり、全国の桐材のおよそ4割が福島県産といわれています。

《2022年の植樹祭の様子》



エフコムの森 やま学校の様子

■毎年秋に、エフコムの森活用イベントとして「エフコムの森やま学校」を開催しています。

講師に本職のきこりさんを招いて、きこりさんによる樹木伐採の見学、チェーンソー体験、まさかりでの薪割り体験、ロープを使ったツリーイング、スウェーデントーチでの焼きマシュマロ・ポップコーン作りなど、多様な活動を行っています。参加者からは、普段の生活では体験できない森での作業を体感できると毎年大盛況です。

《2022年のもり学校の様子》



木に吊ったブランコで
ゆらゆら



チェーンソー体験



薪割り体験



スウェーデントーチで
ポップコーン作り



参加者全員で記念撮影

人を育む【エフコムの塾】

当社の重要な経営資源である『人財』が活躍するための塾を定期的開催しています。お客様のニーズにお応えするため、開発やプロジェクト管理スキルだけではなく、ヒューマンスキルの向上にも重点を置き、『人間力』の向上を目的に社員自らが講師となり、チームで成長できる取り組みを推進しています。

【教育方針】

- ◆企業理念と行動指針に基づく自発的行動と統制のとれた組織体作りを目標とする
- ◆上司・部下が行動、能力、業績の目標を共有し、それらを成長指標とする
- ◆自己啓発と自立型人材の育成を目指す

◆エフコムスマイル塾(F-minine活動)

エフコム内女性WG「F-minine活動」が中心となり、全社員に向けて健康やキャリアデザイン、美化活動など職場環境改善へ取り組んでいます。

◆PM塾 SE塾

「プロジェクトの成功はお客様の幸せ」と考え、プロジェクトを成功するための基礎知識や経験を伝えるPM塾、そして若手育成を目的とし開発基礎知識を深めるよう取り組んでいます。

◆DX塾

企業が避けて通れないデジタル技術による業務やビジネスの変革をビジネスチャンスと捉え、当社での取り組み事例や外部講師による勉強会を開催し、自身の業務への適用を模索するための機会として取り組んでいます。

◆こころ塾

『こころを込めて育成に取り組む』

『こころのこもったお客様対応を』

を実現するために必要なヒューマンスキル、ソリューションスキルの向上に取り組んでいます。

【社内教育制度体系図】



そんな数ある塾の中から、今回はエフコムスマイル塾の活動をご紹介します

◆『「自分流」お片づけで時間確保！～仕事も家事も片づけで効率UP～』開催』

郡山市男女共同参画課企画のさんかく教室より、お片づけコンサルタントの方にお越しいただき、身の回りの「お片づけ」についてエフコムスマイル塾を開催いたしました。普段、なかなか聞くことのできない「お片づけ」に関する内容ということで、男性女性関係なく総勢45名の方に受講いただきました。

今回は講師の方に本社へお越しいただき、会議室とZoomを利用したセミナー形式とし、会議室参加と併用することで新型コロナウイルス対策や長時間離席することが難しい方でも気軽に参加できるセミナーとなりました。



お片づけコンサルタント 鈴木様



瓜生副会長にもご参加いただきました

【第6回 講座内容】

- 片づけを始める前の頭の整理や心の準備
- 片づけの必要性や継続
- 片づけをしながらきれいな状態を保つ方法

💡ポイント



◆今後の活動について

今回利用させていただいた郡山市男女共同参画課企画のさんかく教室では、女性活動に関する内容やワーク・ライフ・バランスに関する内容、人権に関する内容など、専門家の方のお話を聞くことができる貴重な講座が多数ございます。また、健康経営WGとのコラボレーション企画も検討中です。男女関わらず少しでも多くの方に参加していただき、働きやすい職場環境を目指して、F-minineWGでは今後も様々な活動・講座開催を進めて参ります。

【開催を検討している講座】

- 女性が生き生き働き続けるために
- ワーク・ライフ・バランス～家庭や職場のメンタルヘルスのために～
- エイジングの心理～家庭や職場の関わりを考える～
- ハラスメント防止のための基礎知識と相談対応のポイント

など



共に育む【エフコム】の輪

(1) 「一般社団法人ふくしま地域振興研究所」の活動



2017年7月、会津地域を中心に福島県の地域振興を図るため、会津地域の企業及び富士通株式会社との協業にて、福島県河沼郡柳津町に一般社団法人あいつ地域振興研究所を設立しました。

そして2022年6月、福島県における地域創生と貴重な地域資源を活用した持続可能な魅力あふれるまちづくりを推進することにより、地域振興と経済好循環の確立に寄与することを事業目的として、法人名を一般社団法人ふくしま地域振興研究所に改称。新たな企業やメンバーの参画を得ると共に事務所を福島市内に移転いたしました。

◆主な活動内容

- (1)地域振興に関する施策の調査研究事業
- (2)地域の経済活動を活性化させる施策の実施に関する事業
- (3)地域の名産物及び特産物の開発と販売の支援に関する事業
- (4)地域振興に資する事業体への投資
- (5)再生可能エネルギーの普及拡大への支援
- (6)ふるさと納税（寄付）額の増崇支援
- (7)観光の促進支援
- (8)風評被害の払拭支援
- (9)地域文化の活性化支援（映像等）
- (10)その他当法人の目的を達するために必要な一切の事業

◆これまでの主な活動実績

- ①地域振興に関する施策の調査研究事業
 - ・関連企業（富士通他）との連携（2017年度～）
 - ・関連団体（会津地方振興局他）との連携（2019年度～）
- ②地域の経済活動を活性化させる施策の実施に関する事業
 - ・ICT/IoT活用による酒米高品質化事業（2018年度～）
- ③地域の名産物及び特産物の開発と販売の支援に関する事業
 - ・第1回中国国際輸入博覧会での会津産品初出展（2018年度）
- ④地域振興に資する事業体への投資
 - ・柳津観光船(株)様へ出資（2017年度）
- ⑤その他当法人の目的を達成するために必要な一切の事業
 - ・只見線の復旧・復興を応援（2019年度～）
 - ・会津地域のサステナビリティを応援（2020年度～）

身近なゴミ問題、ポイ捨てを防止しカラスなどからごみの散乱も防げる「ごみ収集庫」を寄贈、柳津町の道の駅や会津坂下町の野球場などに設置させていただきました。



サステナビリティ



IoT水門の設置



データ分析

博覧会への出展



只見線復旧・復興



ごみ収集庫



(2) 「ふくしま創生 創・蓄・省エネルギービジネス創出研究会」の活動

地球温暖化や震災、原発問題等を受け、低酸素・循環型・自然共生社会が希求され、福島県はもとより、日本国内外において様々な研究、事業、実証実験等が行われ成果をあげています。

当研究会は、それら個々の取り組みから学び、また会員の持つアイディア、シーズ、ニーズを組み合わせ、『創エネルギー』、『蓄エネルギー』

『省エネルギー』の3分野におけるビジネスを福島の地において創出し、福島の創生に貢献することを目指し、2015年4月14日に設立いたしました。

会員は、福島県内企業を中心とした産・学・官により構成されています。運営は、補助金等の外部資金に頼らずに、産が運営・活動資金を拠出し、活動を主導する形で運営して参りました。

今後も、会員一同力を合わせ、福島発のエネルギービジネスの創出を目指し、邁進して参ります。

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



目指せ、福島発の エネルギービジネスの創出！

◆活動事業

1. 創・蓄・省エネルギー関連ビジネスの創出
2. 創・蓄・省エネルギー関連雇用の創出
3. 創・蓄・省エネルギー関連技術者の育成
4. その他、目的達成に必要な事業及び研究

◆2022年度活動

- ・2022年6月に令和4年度総会及び第13回定例研究会（講演会）を開催
演題：再生可能エネルギー分散電源のシステム統合化支援技術

講師：大谷 謙仁氏

（産業技術総合研究所 エネルギーネットワークチーム 研究チーム長）

- ・2023年1月頃、第14回定例研究会を開催予定

(3) 「情報セキュリティ研修」の紹介

情報セキュリティ教育とは、経営資源のひとつである「情報」（顧客情報、機密情報、技術情報など）を守るために社員を対象として行うリテラシー教育のことです。情報流出と聞くと、マルウェア感染や不正アクセスなど、外部からの悪意ある攻撃を思い浮かべますが、実は情報セキュリティにおける問題は、人為的なミスで生じる場合がほとんどです。また、メールやフィッシングサイトなどの人間の脆弱性を狙った攻撃は、情報セキュリティ教育の徹底でしかリスクの低減は難しいといえます。

新型コロナウイルス感染症の流行により、テレワークやオンライン授業が実践されるなど、社会のデジタル化が急速かつ強制的に進展、それに伴い情報セキュリティ事故の発生も増加しています。

情報セキュリティ事故の原因はさまざまですが、各々のセキュリティ意識（セキュリティ・リテラシー）を高めることで、未然に防ぐことができます。

本研修では、実際に起きた情報セキュリティ事故事例をご紹介するとともに、個人がどのような心がけをすれば情報セキュリティ事故を防ぐことができるのかを学んでいただきます。

研修内容

1. 情報セキュリティ事故・事例から学ぶ
2. セキュリティ10大脅威2022から学ぶ
3. 被害の当事者にならないための心がけ
4. まとめ



情報セキュリティ事故は、
企業の存亡に
かかわる場合もあります。

業務の一時停止

事故対応費用

損害賠償

社会的信用の低下

行政処分・罰金等

従業員への影響

(4) 「獣(じゅう)マップ」の紹介

【鳥獣害対策の現状】

近年、福島県内でも野生鳥獣による農業被害が拡大しその被害額は高止まりしている。福島県における令和2年度の農作物被害額は、総額で198百万円となっており、全国での同年度農作物被害額は、総額で16,109百万円となっています。

被害対策の基盤となる情報管理について、農作物被害が発生している「場所」や「被害状況」、捕獲目的の罠の「設置位置」や侵入防止柵の「設置エリア」、捕獲や目撃、観測結果の「獣種や場所」などがあります。これらの情報は自治体の各担当部署に散在していることも多く、一元的なデジタル化がなされていないため、関係者間（県－市町村－地域対策実施隊－地域住民）での情報共有や被害対策につながる分析が困難な状況となっています。



【獣(じゅう)マップ】

2019年度から鳥獣害対策に係る課題を解消すべく、ICT、AI、IoT、デジタルを用いた実証実験を福島大学や会津大学と推進してきた中で、開発されたのが「獣(じゅう)マップ」です。

各市区町村における鳥獣害対策のさまざまな情報をICT技術を用いてWebサイト上に可視化することで、「地域住民」⇔「地域対策実施隊」⇔「地方自治体」での情報共有や効率的な連携を可能とし、対策の効率化・データの蓄積/分析・持続的な管理など様々な用途で効果を発揮します。

◇2022年11月リリース

◇監修：国立大学法人福島大学 農学群食農学類 望月翔太准教授

◇特許出願中：整理番号：P20210840
出願番号：2021-199640



照らせ、
一歩先を

データセンターが貢献する サステナブル社会

(1) データセンターの紹介と環境負荷低減

福島データセンターは CO₂ 排出量を抑制し環境への負荷軽減を図るために、電力消費量を抑える取り組みを実施しています。

データセンターの消費電力の約3割はサーバの排熱を処理する冷却に使用されるのが通説となっており、いかに冷却効率を高めるかが消費電力を抑えるポイントとなっています。福島データセンターはサーバの排熱を完全に密閉し排熱だけを冷却するHACS(Hot Aisle Containment System)を導入し冷却範囲を局所化する事により冷却効率を高めています。合わせてDCIM(Data Center Infrastructure Management)との組み合わせにより、排熱量により空調ファンの回転数を最適に制御する仕組みや水冷式空調機の導入で消費電力を削減する仕組みも導入しています。寒冷地のロケーションを活かし空調機の冷媒を外気で冷却するフリークーリングシステム、太陽光発電の活用、敷地の緑化など様々な取り組みをおこなっています。

また一般社団法人情報サービス産業協会(JISA)の低炭素社会実行計画に賛同し、CO₂削減自主行動計画へ参加して環境負荷の低減、データセンターのエネルギー効率化の目標を定め、達成に向けて活動を進めています。



【福島データセンター概要】



- 立地：福島市、敷地面積 (9,614㎡)
- 建屋：3階建て、免震、延床面積 (3,216㎡)
- 設備：高規格仕様 (高い「信頼性・安全性・可用性」)
J-Tier 4 相当
- 環境：再生可能エネルギー採用、省エネ設備

<主な認証>

- ・ISO/IEC 27001
- ・ISO/IEC 27017
- ・ISO/IEC 20000-1:2011
- ・プライバシーマーク
- ・FISC 安全対策基準 (設備基準)
- ・LIGWAN-ASP ファシリティサービス登録事業所
- ・医療情報システムに関する安全管理ガイドライン準拠
- ・総務省：届出電気通信事業者 1-12-366

太陽光発電



太陽光発電をサーバールームで消費

HACSシステム

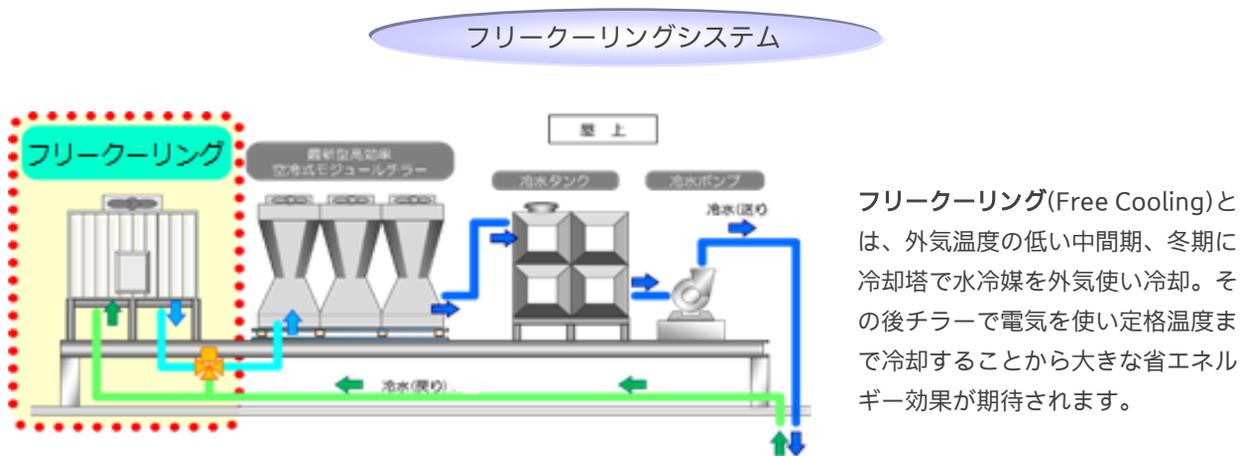


水冷式空調を採用しホットアイルを完全密閉したモジュール型ラックを採用

電力コストは、お客様の負担にもつながります。
高効率な空調機とフリークーリングの活用により、環境にも、お客様のビジネスにも
やさしいデータセンター、それが福島データセンターです。

排熱の封じ込みとフリークーリングで、高効率で自然環境にやさしい冷却システムを実現

自然環境にやさしいデータセンターを実現するため、東北地方の寒冷な気候を生かしたフリークーリングや太陽光発電などを取り入れてます。自然エネルギーを最大限に活用することで、CO₂ 排出を可能な限り削減しています。データセンター全体の電力消費量の中で冷却の消費電力量は大きな割合を占めます。そこで、高効率な冷却システムを導入することで電力効率としては、PUE 1.3 を目標に排熱の封じ込みと水冷式空調機を採用しました。



(2) データセンターが高度に共助し貢献する「FCAセンター相互応援コンソーシアム」について

全体運営を担うブロック長会議に東ブロック長として参加しコンソーシアムの組織運営の一旦を担っております。ブロック長会議では各ブロック会議の開催時期・検討内容・課題を持ちより、より良い運営に繋げるべく協議、検討を進めております。

各会員様にはコロナ禍における働き方の変更によるBCPや防災備蓄品の在り方について懸念があり、富士通様の事例を共有頂くなどしニューノーマルな時代のBCPについて模索しております。また、Web会議が主体となり、膝を付き合わせての議論が出来ない環境が長く続く状況の中、顔の見える関係性の低下を懸念する声が多く寄せられており、関係性を維持する方策や集合による会議開催なども踏まえて検討している状況です。

今年度の全体防災訓練は、各会員様の情報発信、情報取り纏めについて重きを置き、初動での情報収集について訓練を実施しました。また、防災備品の要求が発生した想定で応援統括班を組織し3チームに分かれてそれぞれの役割の訓練を実施しました。

東ブロックに付きましては2月にブロック会を開催し、昨年度のブロック内防災訓練の振り返り、コミュニケーション基盤(SPO: SharePoint Online)の使い勝手、SDGs、動力費高騰などについて協議を行い、各会員様と情報を共有いたしました。また、Web会議であることから、他ブロックの方にもご案内し参加頂きました。今後も新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら集合形式、Web形式、ハイブリッドなど会議体を選択しながらブロック会を開催し各会員様のBCP向上、顔の見える関係性の向上に取り組みます。

当社は東ブロック長及び全体運営を担うブロック長会議のメンバーとして今後もコンソーシアム運営に主体的に取り組む、各会員様のBCP向上に貢献してまいります。

(3) 大型ロール紙プリンタ導入(新BPO)について

2022年1月より東北地区のICT企業で初となる大型ロール紙プリンタが稼働し、新たなデータプリントサービスを提供しております。大型ロール紙プリンタでは、帳票のプレプリントと個人毎のデータを同時に印字する為、プリントサービスのコスト削減や短納期を実現することができます。以下が大型ロール紙プリンタの主な特徴です。

■ 印刷業務の効率化（専用紙調達からロール紙調達へ専用紙在庫が不要）

導入前

- ▲ 税目ごとに帳票レイアウトが異なる為、税目毎に用紙の発注が必要。
- ▲ 法改正や年度が切り替わる度に帳票レイアウトを変更し新たな用紙を発注。



用紙業者にて専用紙を作成し、プリントセンターにて個別データを印字・後加工処理を実施

導入後

- ◎ 作業前の用紙の大量保管が不要。用紙素材が同一であれば複数税目でロール紙を共有する事が可能。
- ◎ データにて帳票デザインを作成・管理するため、データを変更するだけで用紙校正が可能



白紙のロール紙に「システムデータ印字」と「専用紙作成」を同時に行う。※必要な分だけ印刷

■ 印字品質の効率化（ラインカメラによる自動検査）

導入前

- ▲ トナー付着不良による印字欠けや濃度不良が懸念
- ▲ 印字が欠けてしまいバーコードが読めない等の問題を防ぐため、印刷完了後は作業員による目視確認を実施。



導入後

- ◎ 画像検査装置にて出力するデータとラインカメラ（光の量をビデオ信号に変換して出力）で読み込んだ映像の照合を行い、文字欠け、印字ずれ、汚れを検知するとともに各種バーコードの読み込み検査が可能。



■ SDGsの取り組み

- 大型ロール紙プリンタを導入することで、前述の「廃棄用紙の削減」や「用紙の輸送機会の低減」等使用するエネルギーを削減します。
- 一般社団法人 日本印刷産業連合会によって制定された「グリーンプリンティング認定制度」に適合した大型ロール紙プリンタであり、環境汚染物質の削減や省資源・省エネルギー等 環境配慮を示した最も高いスリースターを獲得した製品となります。



信頼への取り組み

(1) 品質向上 (ISO9001) への取り組み

当社のシステム部門は、ソフトウェア開発サービスを行う情報サービス業として、品質の重要性を認識し、2001年10月に品質マネジメントシステム (QMS) を制定しました。

2002年6月に、財団法人日本品質保証機構のJQAマネジメントシステム登録の公表と登録マーク使用の認定を受けましたが、2010年3月より日本検査キューエイ株式会社に認証機関を変更し、2018年7月には2015年版適用規格に変更認定されました。

登録組織：株式会社 エフコム

システム本部 医療ソリューション部、第一ソリューション部、
第二ソリューション部、公共ソリューション部

登録範囲：顧客要求仕様に基づくソフトウェアの設計及び開発・導入
(要員派遣・設計開発を伴わないお客様をフォローするための保守・
アウトソーシング業務は除く)

登録範囲に含まれる事業所：

システム本部 医療ソリューション部、第一ソリューション部、
第二ソリューション部、公共ソリューション部

JAオフィス

株式会社 エフコムマーケティング ソリューション事業本部
自治体ソリューション部、産業ソリューション部、
イノベーションシステム部

品質マネジメントシステムの目的は、登録組織のプロジェクトおよびプロセスに対して適用され、品質の作り込みと維持活動を継続的に行うことにあります。製品やサービスの品質を継続的に改善し、これまで以上にお客様にご満足いただけるよう努めております。

(2) 情報セキュリティマネジメント (ISO27001) への取り組み

当社のシステム運用部門は、2000年に情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) を制定し、2003年9月にISMS (Ver 2.0) の認定を取得、2007年9月にISO27001への移行認定を受けました。認定規格は当社のDCサービス部、インフラサ

ービス部の基盤運用およびシステム運用に係わる福島データセンター、会津iDCの業務、要

員に適用され、認定に基づく情報セキュリティマネジメント活動を日々行っています。

また福島データセンターは、FISC安全対策基準 (設備基準) の認証を受けています。

登録組織：福島データセンター、会津iDC

登録範囲：受託計算サービスの運用、ホスティングサービスの運用、
ハウジングサービスの監視、クラウドサービスの運用

ISO27001を取得することで、お客様の情報資産を様々なリスクから守り、安定した運用サービスを提供いたします。



REGISTERED ORGANIZATION
No.4177-ISO9001
医療ソリューション部、第一ソリューション部、
第二ソリューション部、公共ソリューション部
郡山本社/JAオフィス



REGISTERED ORGANIZATION
No.247-ISO/IEC27001
福島データセンター
会津iDC

(3) ITサービスマネジメント (ISO20000) への取り組み

当社福島データセンターのシステム運用部門は、2014年にITサービスマネジメントシステム (ITSMS) を制定し、2015年3月にISO20000の認定を取得しました。ISO20000は、お客様のニーズとビジネス要求に合致したITサービスを提供するための一連の仕組みが備わっていることを証明する認証資格です。

登録組織 : 福島データセンター

登録範囲 : 福島データセンターにおけるハウジングサービス

ISO20000を取得することで、当社ITサービスに対するお客様の信用・信頼を高め、サービスの満足度向上に取り組んでいます。

(4) クラウドサービスセキュリティ(ISO27017)への取り組み

当社のクラウドサービスは、2019年9月に「ISMSクラウドセキュリティ認証 (適用規格: JIP-ISM517-1.0)」への適合認定を受け、クラウドセキュリティの国際規格となるISO/IEC27017の認証を取得しました。

この規格はクラウドサービスの普及によりクラウド環境のセキュリティ対策の重要性が高まる中で、ISMS情報セキュリティマネジメントシステムをベースにクラウドサービス特有の情報セキュリティ対策にフォーカスした管理策が示されており、当社はこれに準拠したクラウドサービスの運用管理を実施しています。

登録組織 : 福島データセンター

登録範囲 : 福島データセンターにおけるクラウドサービスプロバイダーとしてのIaaSサービスの提供

- ・エフコム コミュニティ クラウド
- ・エフコム プライベート クラウド

ISO27001に加えISO27017を取得することで、クラウドサービスのセキュリティ強化につなげ、お客様へより安全で安心なクラウドサービスを提供いたします。

(5) 個人情報保護 (Pマーク) への取り組み

当社は1998年10月に個人情報保護マネジメントシステム (PMS) を制定し、1999年2月、一般財団法人日本情報経済社会推進協会のプライバシーマーク付与認定を取得いたしました。

適用範囲は、役員、正社員、契約社員、パート・アルバイトと派遣社員を含む全従業者、部署、拠点においても全社を対象としています。

事業カテゴリである受託開発業務、パソコン・サーバ等を含む情報ソリューションの提供及び保守、アウトソーシングサービス、パソコン講習などにおいて多くの個人情報を取り扱っており、早くから情報保護の重要性を認識した取り組みを実施してまいりました。プライバシーマークの維持は、社内管理や運用の更なる強化をねらいとし、その活動で有用に機能しています。

また、情報サービス業を営む企業として、社会的立場からも本取り組みの意義を理解の下、個人情報保護マネジメントシステム (PMS) に沿った管理・運用体制の整備と共に社員と事業の用に供している個人情報の全てについて適切な取り扱いに努めております。

引き続き、各種関連法の改正対応や社会情勢の変化も考慮して、個人情報保護活動の遂行と顧客満足度の向上を図ってまいります。



ビジネスインフォメーション

System Integration 導入システム企画

豊富な業務システムの構築経験を活かし、システムのライフサイクルに基づく最適化をサポートいたします。お客様のニーズにお応えできる専門家集団として、企画・構築・運用をトータルにご支援いたします。



Cloud Service クラウドサービス



最先端のICTと長年培ってきた業務ノウハウから生み出されたビジネスプラットフォームです。従来の枠を超えて、お客様の事業革新とビジネス加速をご支援いたします。

Software Design ソフトウェア開発

多くのソフトウェア開発実績を保有します。IoTによるデータ解析やモバイルデバイスの新たな活用など、先端システムへの対応もいたします。



Business Process Outsourcing 業務アウトソーシング

お客様の業務を定型化し弊社スタッフがお客様に代わり業務運用を担当いたします。お客様は本来の業務に資源を集中する事が可能になります。



Field Support お客様サポート

コールセンター、カスタマーサービスなど、常にお客様の身近な存在でサポートいたします。そしてお客様への安心と満足を提供いたします。

Product Service パッケージソフト開発

当社の長年にわたるシステム開発実績で蓄積されたノウハウを提供することにより、短期間でお客様にソリューションを提供いたします。



Information Devices sales Supply sales

情報機器／サプライ品販売

PC、タブレット、サーバー等の情報機器を提供いたします。

また、プリンタトナーや各種PCアクセサリなどの消耗品も豊富に品揃え、毎日のオフィスワークをトータルにサポートいたします。



Media Archive Service メディア・アーカイブサービス

お客様の貴重なメディア媒体を、安全安心にご指定の媒体へデジタル化いたします。

また、デジタル化されたデータを高度なセキュリティを確保した当社のデータセンターに保管し、クラウド上で検索・編集するサービスもご提供しています。

Security Support セキュリティ対応

日々高度化、巧妙化するサイバー攻撃への対策は、ICTを安心安全に活用していくための大きな課題となっています。お客様のセキュリティ環境が常に最適な状態を維持できるためのご支援をいたします。

会社概要

社名：株式会社エフコム F-COM Co.Ltd.
本社：〒963-8520 福島県郡山市堤下町13番8号
代表者：代表取締役社長 斎藤 正弘
設立：1980年9月12日
資本金：2億7千万円
売上高：94億6千万円（2022年3月期）
従業員数：351名（2022年3月31日現在、正社員数）
関係会社：株式会社エフコムホールディングス
株式会社エフコムマーケティング
株式会社マイコム





<本報告書の対象範囲>

(対象期間)

2021年10月1日～2022年11月30日

ただし、一部には2021年10月以前、2022年11月以降の
考え方、取り組み及びデータ等が含まれます。



エフコムHP



報告書バックナンバー

●発行日／2023年1月31日

●発行／株式会社エフコム 福島県郡山市堤下町13番8号 TEL:024(922)2555 FAX:024(922)2696

●発行責任者／代表取締役社長 斎藤 正弘

●発行部署／広報委員会

●企画・編集責任者／鞠子 政明

※ユニバーサルデザインフォント「みんなの文字」を使用しております。